



故 L. 酒井 一利

ありし日を偲ぶ

会長 L. 森 桂吾

今は亡き故L酒井一利のみたまの前に
お別れの言葉を申し上げます。一利さん、
貴方の御逝去を耳にした時、驚きこの上
なく、哀しみまた限りがありませんでした。
貴方は昭和36年蒲郡ライオンズクラブの
チャーターメンバーとなり以来、会長、
ゾンチェアマン、リジョンチェアマン
と数々の役職を歴任し、特にマリンライ
オンズクラブ結成に当たっては最高の
理解者、尽力者でありました。そして30
周年大会委員長として東奔西走、中学生
を富士登山につれて行ったことを嬉々とし
て話してくれたのもついこの間でした。
それなのに忽然として一夜の嵐に散って
しまわれました。平均寿命80年時代に55
才と言う年齢は、まだ人生の半ばであり、
燃える命の灯を消すには余りにも早過ぎ
ました。病を克服し、人生の仕切りなお
しをしてもう一度やりたいことが沢山あ
ったと思います。月に三回位は「森さん」
と大声をあげて私の事務所に来られた姿
は、私の心の印画紙に焼きつき、貴方の
数々の想い出はさざ波の静まった水の
底の小石がはっきり見えてくるように一
つ一つ浮かび、私の涙をさそいます。今
は幽明境を異にして永劫相まみえること
が出来なくなってしまいました。誠に痛
恨のきわみであります。どうぞ安らかに
お眠り下さい。在りし日を偲びつつ御冥
福を祈り、会員一同と心から黙禱を捧げ
ます。



故 L. 市川 久也

久也君、さようなら

副会長 L. 市川 直

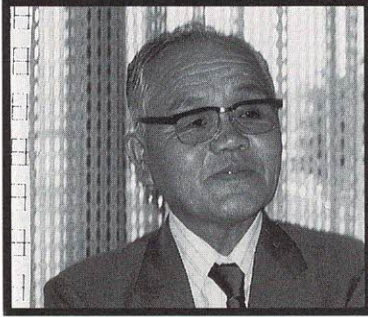
久也君とは、小学校時代からの友達で、
彼はいつもクラスのリーダーとして皆か
ら慕われていました。中学校では、野球
部のキャプテンとして大活躍し、形原中
学校の名を世に広めたものです。

昭和53年、蒲郡ライオンズクラブに、
私がスポンサーとなり入会しました。当
時、市川鉄工の社長になったばかりで、
意気揚々としていたことが思い出されま
す。

蒲郡マリンライオンズクラブ結成の折、
久也君は痔の手術のため豊田の家田病院
に入院していました。見舞いに行った際、
「私は、マリンライオンズクラブへ移籍
するが、君はどうするか？」と聞くと、
「もちろん、君たちと一緒に頑張りたい」
と力強く答えてくれました。

平成4年4月28日の深夜、家で吐血し、
翌日の午後1時40分帰らぬ人となりました。
「体がだるい」という彼に奥さんが
何度も病院へ行くよう勧めましたが、最
後まで病院へ行かず、一人で病魔と闘っ
たのだろうと思います。あまりに突然で、
残念でたまりません。

心からご冥福をお祈りいたします。久
也君、さようなら。久也君、さようなら。



故 L. 加藤美喜雄

ご冥福を祈ります

L. 高橋 二郎

加藤さんとの最初の出会いは、何時どこだったかと考えてもしっかり思い出せませんが、気の合ったもの同志とはこのようなものではないでしょうか。たまたま、同年配なるがゆえに盃をかたむけ、ともに語り合ったことが今、思い出されます。

加藤さんは非常に温厚な方で、何を言ってもいやな顔一つみせず、他人から物ごとを頼まれれば断ることの出来ない立派な人でありました。

作手に山を持つ関係から加藤さんの案内で、奥三河へ度々ライオンズクラブの有志メンバーが出かけました。寒狭川の鮎取り、生で飲むと長生きするというサンショウウオ、また稲武の古橋懐古館、新城の佛像拝観等、加藤さんの親切な世話役の思い出はつきません。

また、加藤さんはゴルフが上手でその手ほどきを受けた人は大勢おり、蒲郡在住の額田GCメンバーによる「イーグル会」の結成に苦勞され、お陰で現在も月1回のプレーが続けられています。

加藤さんの御子息、御嬢様もそれぞれ立派に独立され、これからは趣味の世界で一層深いお付き合いがいただけるものと楽しみにしておりましたが、誠に残念でなりません。ここに長い間の恩義と友情を深く感謝し謹んで御冥福をお祈りいたします。さようなら、加藤さん。



故 L. 宮下芳彦

痛恨のきわみ

会長 L. 森 桂吾

謹んで今は亡き宮下芳彦さんのみたまの前につきない涙の中からお別れの言葉を申し上げます。

63才という、まだ人生の午後に差しかったばかりで、人生と言う舞台から退場し、燃える命の灯を消すにしては余りにも早過ぎ誠に残念のきわみであります。人生とは色々な思い出を秘めて、一つまた一つ新たな峠を越えて行く限り無い旅路で順境の時もあれば逆境の時もあり、ただ誰もがのがれられない逆境は死であると思います。貴方は蒲郡ライオンズ、蒲郡マリンライオンズと両クラブに合わせて在籍10年になります。その間温厚篤実な人柄は多くのメンバーの尊敬と敬愛の的でした。その貴方がこんなに早く人生の終着駅のホームにおいてしまうとは夢々思いませんでした。驚きこの上なく悲しみまた限りございません。

宮下さん どんなにか つらかったですでしょう
どんなにか 悲しかったですでしょう
どんなにか 残念だったでしょう

そしてもう一度人生の仕切直しをするために、奥さん、子供さん、お孫さん達の膝元にどんなにか帰りたいかったですでしょう。永遠に覚める事のない眠りにつかれ誠に誠に痛恨のきわみであります。そぞろ感慨禁ずる事あたらず、謹んでお別れの言葉を捧げます。



連 合 王 国

L. 水藤 勇

1967年、当時は外貨不足で持ち出し制限の時代であった。長く留守にしたらどうかと心配をしながら北回りでオランダをふり出しにイギリスからアメリカまで10ヶ国経由の40日間の旅行をしたが、それからというもの外国旅行はなるべく1ヶ国を選ぶようにしている。

ところで、1988年と89年の2回、ロンドンに住む友人の厄介になりイギリス見物に出かけた。この機会に英国の様子をじっくり見たいと思ったわけで、飛行機をやめキングクロス駅からインターシティ号でスコットランドの古都エジンバラ行きに乗った。

エジンバラでは、英国のポンドを払うと釣り銭はスコットランドBKのお札でくれるが、レートは同じ。英国という一つの国ではなく、何ヶ国かの連合体で英国またはイギリスという国名は通称であり、正式には「連合王国」ということを聞かされる。

18世紀始めにイングランドの侵略をうけ統一されたスコットランドは、今も中央銀行や国会、国の予算をもっており、スコッチウイスキー、タータンチェック、カシミヤ等英国らしきものの発祥地であり、過去の戦争合併という歴史からもかなりの対抗意識をもっている様子がありありとわかる。しかもロンドンに戻ったらスコットランドのお札は通用せず、両替商でもお断りでイングランドでは紙切れ同然になってしまった。

同じ国なのにと複雑な思いと同時に、スコットランド人の気持ちも分かるような気がした。

数日後、友人とゴルフに行くこととなり、奥さん（アメリカ人）と家内が握ってくれた“おむすび”をバッグにつめて出かける。

ロンドン西方の36Hの名門コース、メンバーとビジターでは駐車場が異なり、ビジター用は遠くて舗装もしてない。クラブハウスには入れず車の中で着替えバッグをかつぎ、宝くじ売り場のような受付でグリーンフィを払うとピンク色の荷札をくれ、それをバッグにつけて1番ティーグラウンドへ。そこへ山高帽と蝶タイに口ひげをつけた大男のスターターにせきたてられて第1打チョロ。コースの手入れはお世辞にも良いとはいえない。キャディは1人もおらず売店はなし、バッグの中の“おにぎり”で昼食。さらにプレー後もビジターはシャワーも使えない。

このまま帰るといので、メンバーのS製鋼の現地法人の方に頼んでもらい、ピーナッツにグラス一ぱいのビールの立飲みだけという始末。なんともはやむかつきを感じ、帰りの車の中で私がブツブツこぼしたら、S製鋼の現地法人の人や私の友人がこれがイギリスというものであり、イギリス人だよと笑ってすましている。

慣れとはそういうものかと思いつつながら「連合王国」の一面をうかがい知る旅行をした体験記である。